

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第1号 津波被災農地復旧に係る営農技術対策

発行日 平成24年3月22日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 土壌の塩分は、これまでの雨や雪により低下していますが、一部目標EC(0.6dS/m)まで低下していない事例も見られますので、ECを確認し高い場合は除塩対策を進めてください。
- ◆ 昨年作付けをしていない水田ではノビエの多発が懸念されますので、除草剤の体系処理を行いましょう。

## 1 土壌ECの確認及び除塩の促進

東日本大震災から約1年が経過し、これまでの降雨等により津波被災ほ場の塩分濃度は低下している事例が多いですが、一部目標EC(0.6dS/m)まで低下していないところも見られることから土壌ECを確認しましょう。

特に滞水するようなほ場でECが下がっていない事例が見られるので、作付けまでに降雨・雪解け水による除塩を促進するため、弾丸暗きよ等の施工を行いましょう。

## 2 ほ場周辺の雑草対策

平成23年に作付けができなかった農地の畦畔及び農地周辺ではノビエをはじめとした雑草が繁茂している事例が多く見られました。これらの雑草種子が多量にこぼれていることから今後の管理対策として、非選択性除草剤を用いた雑草対策を行うことが省力管理の面から望ましいと考えられます。

なお、畦畔及び農道への除草剤散布は、水田や畑への農作物の播種・定植前に行うことが望ましく、その後も雑草の発生状況に応じて、適宜除草剤散布を行いましょう。

ただし、農作物に除草剤が飛散しないように十分に留意してください。

## 3 水稻の栽培管理

### (1) 土壌改良及び施肥

土壌の状態は、津波の被災状況、その後の復旧工事における堆積土の処理、客土の有無等によって条件が異なりますので、次の点に留意してください。なお、作土、客土、堆積土等のイメージを図1に示します。

ア 津波やがれき除去により作土が削られたため、客土を行う場合には低pHやリン酸不足が懸念されます。客土の土壌分析を行い、必要に応じて土壌改良材による土壌改良を行ってください。

イ 従来の作土がほぼそのまま残っている場合には、地域の標準施肥量を基本とします。

ウ がれきが少なく堆積土が薄かったため、堆積土を除去しないでそのまま作土に混和した場合には窒素が富化されていることが懸念されますので、基肥施用量を2割程度減らし、生育が不足する場合は追肥で対応してください。

エ 予想に反して、移植後の草丈が長い、葉色が濃いなど地力が高いと見込まれる場合は、6月下旬から7月上旬にかけて中干しを行ってください。

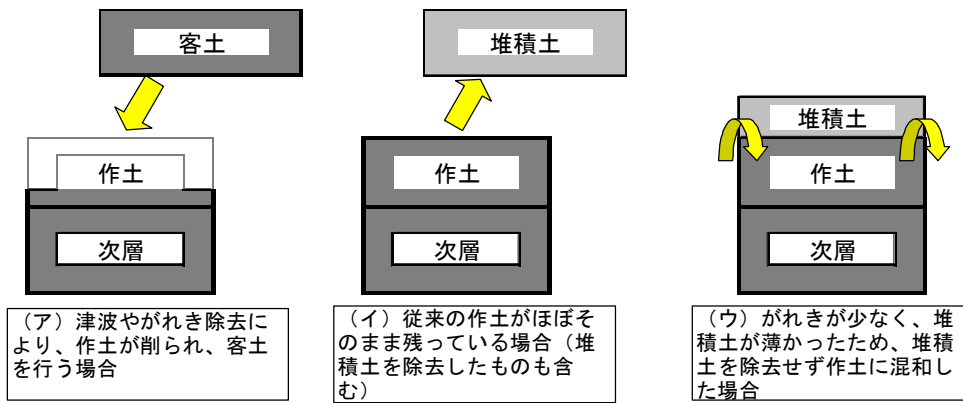


図1 作土、客土、堆積土等のイメージ

(2) 本田内雑草防除

除草体系は慣行移植体系に準じるが、復旧田ではノビエ等のこぼれ種が多いことから以下のことに注意し雑草防除をしてください。

ア 雑草が特に多い場合は、耕起前に非選択性茎葉処理剤を使用しましょう。

イ こぼれ種が多く、雑草の発生が多い場合は体系処理を基本とし対応してください（図2）。

	+0	+3	+5	+10	+15	+20	+25
田植	エリジン乳剤 ソルネット1キロ粒剤 シヨキニフロアブル バクサーフロアブル +0～+5 (ビエ1.0葉まで、ただしバクサーフロアブルはビエ発生始期まで)			初中期一発処理剤			
		バレージ粒剤 +3～+10(ビエ1.5葉まで)				サーベックス SM粒剤	

・初中期一発処理剤とサーベックスSM粒剤の使用時期は、移植後30日まで（3月16日現在の農業登録情報による）

図2 水田除草剤の体系処理

ウ 砂の流入等で水保ちが悪い場合は湛水深に注意し、剤型は粒剤を選択します。

エ 雑草防除実施後、雑草が残った場合は追加防除を実施してください。追加防除は残った雑草の種類で使用薬剤を選択してください。

オ 農薬の使用にあたっては使用上の注意をよく読んでから使用しましょう。

(3) 水稻移植が遅れる場合の対応

復旧工事の進捗状況等を地域内で確認し、工事終了が通常移植時期に比べて遅れる見込みの場合には、表1の移植晩限を参考に種子や育苗の準備を行ってください。

表1 水稻移植可能晩限

地区	いわてっこ			あきたこまち		ひとめぼれ	
	稚苗 2.5	中苗 3.5	成苗 4.5	稚苗 2.5	中苗 3.5	稚苗 2.5	中苗 3.5
県北 久慈	5月24日	5月28日	6月3日	—	—	—	—
東部 小本	—	—	—	5月13日	5月18日	—	—
山田	—	—	—	5月20日	5月25日	—	—
釜石	—	—	—	6月5日	6月8日	5月29日	6月1日
大船渡	—	—	—	6月15日	6月18日	6月10日	6月14日

注) アメダスと日平均気温平年値をもとに、移植時期の限界とされる出穂後40日間の積算気温760℃を確保できる最も遅い移植日を品種、苗質毎に算出した。なお、移植適期は出穂後40日間の積算気温840℃以上を確保できる日としている。

次号は4月26日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。